証券コード 6524



湖北工業はアルミ電解コンデンサ用リード端子と
海底光通信用部品のリーディングカンパニーです

2026年12月期第3四半期 決算説明資料

湖北工業株式会社

2026年11月12日

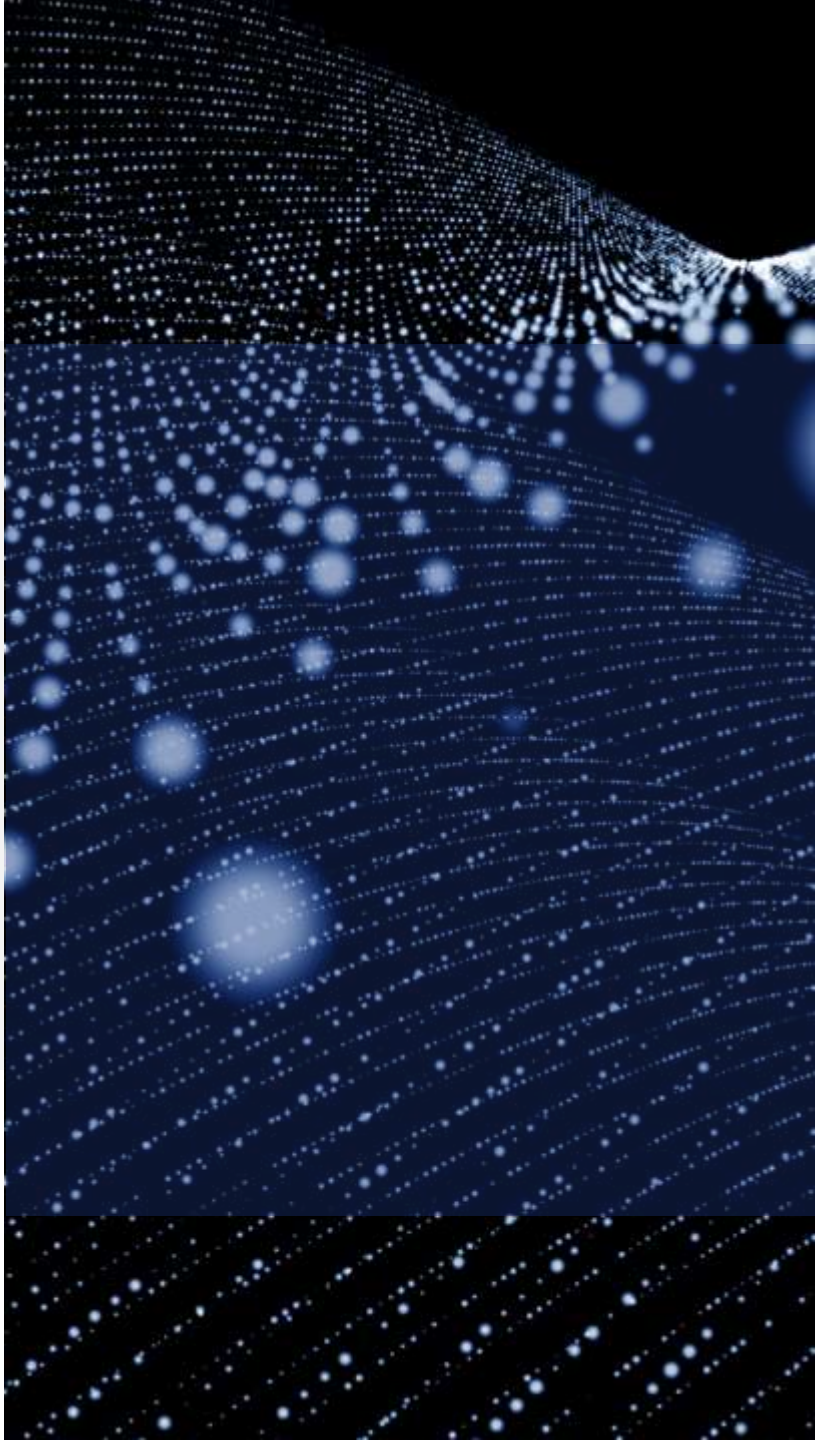
目次

Ⅰ. 2026年12月期3Q 業績ハイライト …… P. 2

Ⅱ. セグメント別の状況（リード端子）…… P. 9

Ⅲ. セグメント別の状況（光部品・デバイス）…… P. 18

Ⅳ. 参考情報 …… P. 27



Ⅰ. 2026年12月期3Q 業績ハイライト

2026年12月期(3Q累計)のハイライト

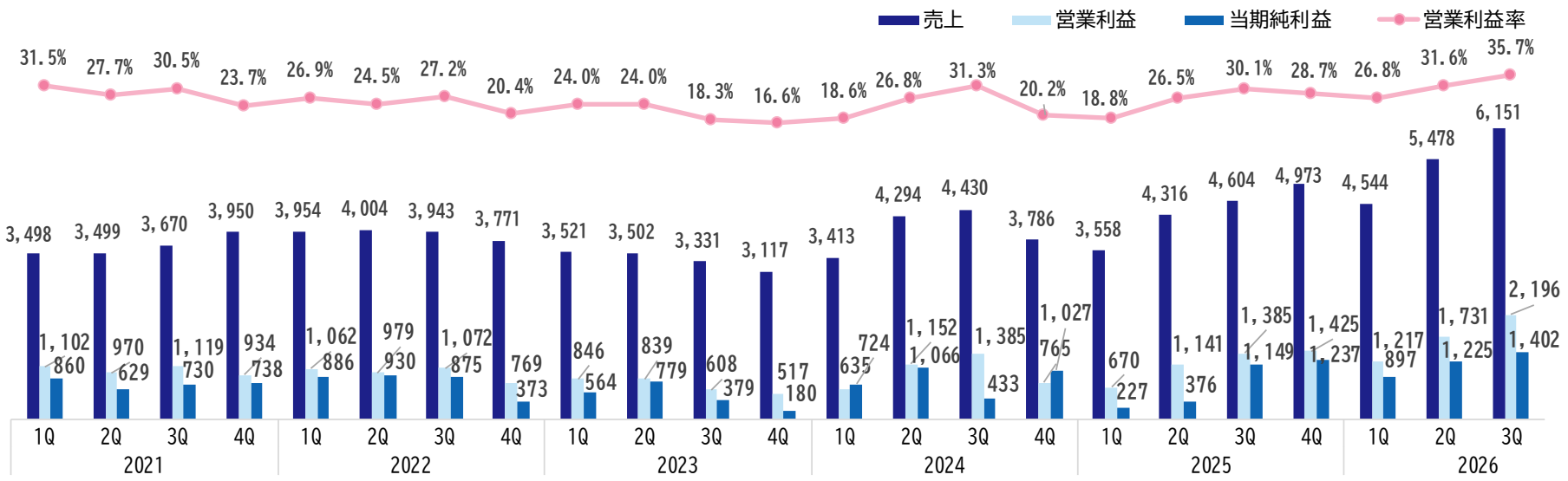
＜業績概要＞

- 第3四半期累計期間の業績は前年同期比で売上が+29.6%（+3,694百万円）、営業利益は+60.9%（+1,947百万円）の増収増益
- 光部品・デバイス事業は、旺盛な海底ケーブル需要と新製品効果により四半期ごとに売上が増加、リード端子事業についても市場回復に伴い売上増加傾向が続き、順調な進捗状況。両事業部門ともに、２四半期連続過去最高の売上/利益を更新
- 利益面では、製品ミックス・生産効率改善等により両事業部門共に想定を上回る進捗となった

＜事業環境＞

- 海底ケーブル市場は、順調なプロジェクト投資を背景に光部品・デバイスの好調な受注が継続
- 自動車関連市場では、中国では国内市場の低迷が続いたが輸出は好調、欧州市場も底打ちし、全体として緩やかな回復傾向
- 情報通信インフラ市場では、生成AIサーバー向けは急成長続く。PC関連は非常に厳しい状況

売上高、営業利益、当期純利益、営業利益率（百万円、%）



損益計算書(3Q累計)の概要

両事業部門で改善傾向が継続し、前年同期比大幅増収増益を達成

＜前年同期比較＞

＜四半期比較＞

（単位：百万円）

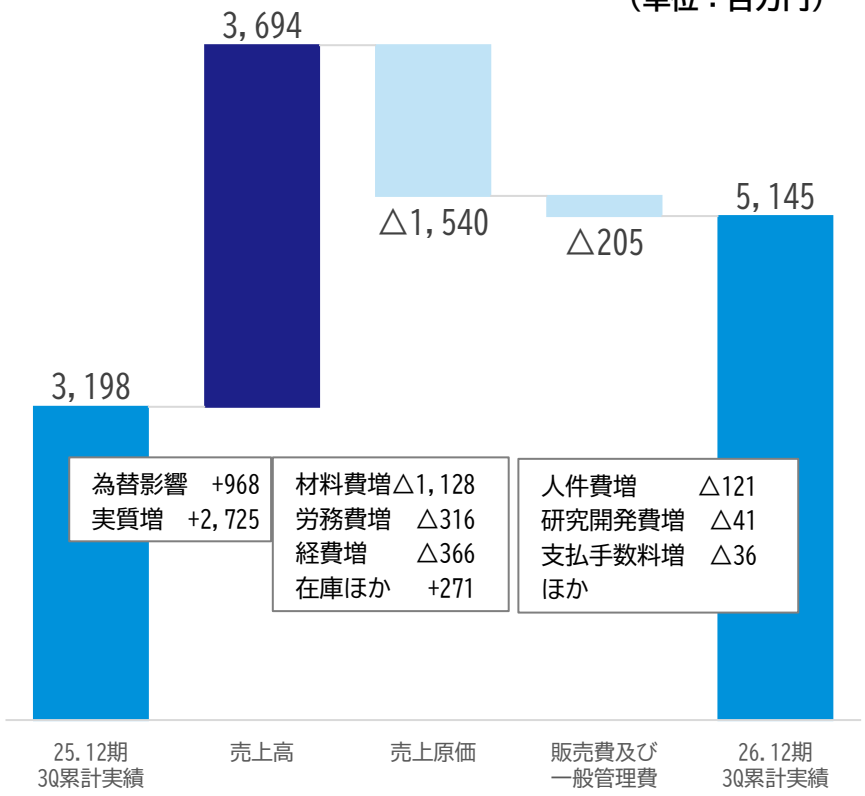
	2025年12期	2026年12期			2026年12期				
	3Q累計 (1月-9月)	3Q累計 (1月-9月)	対前年同期増減	前年同期比	1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	対前四半期増減	直前四半期比
売上高	12,480	16,174	+3,694	+29.6%	4,544	5,478	6,151	+672	+12.3%
リード端子事業	6,359	8,442	+2,082	+32.8%	2,516	2,843	3,082	+238	+8.4%
光部品・デバイス事業	6,120	7,731	+1,611	+26.3%	2,028	2,634	3,068	+434	+16.5%
売上総利益	5,370	7,523	+2,153	+40.1%	1,965	2,551	3,006	+455	+17.9%
販売費及び一般管理費	2,171	2,377	+205	+9.5%	747	819	810	△8	△1.1%
営業利益	3,198	5,145	+1,947	+60.9%	1,217	1,731	2,196	+464	+26.8%
営業利益率	*25.6%*	*31.8%*	*+6.2pt*	―	*26.8%*	*31.6%*	*35.7%*	*+4.1pt*	―
リード端子事業	555	1,021	+465	+83.8%	209	340	472	+132	+38.9%
光部品・デバイス事業	2,642	4,124	+1,481	+56.1%	1,008	1,391	1,724	+332	+23.9%
経常利益	2,827	5,111	+2,283	+80.8%	1,327	1,824	1,959	+134	+7.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,754	3,525	+1,770	+100.9%	897	1,225	1,402	+177	+14.5%
為替レート（期中平均）	148.09円/$	158.67円/$			156.96円/$	159.57円/$	159.41円/$		

営業利益(3Q累計)の増減要因

前年同期比

順調な売上の増加に伴い営業利益が改善

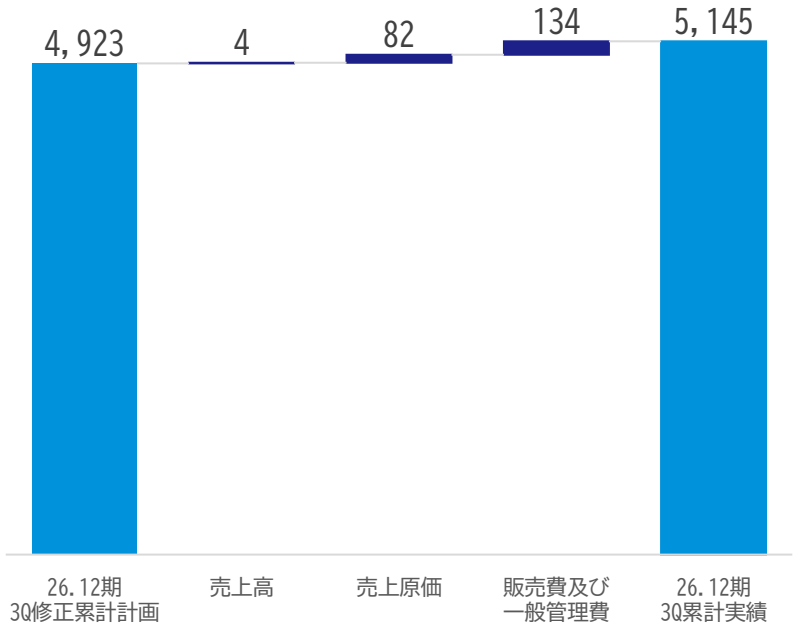
（単位：百万円）



計画比（中間実績+8月時点3Q修正計画との対比）

固定費圧縮等により計画比上振れ

（単位：百万円）



貸借対照表(3Q)

（単位：百万円）

貸借対照表	25年12月期末	26年12月期3Q末	増減額	主な増減内容
流動資産	17,027	19,809	+2,781	現金及び預金 +2,749、売掛金 +326、 電子記録債権 △1,126、有価証券 +295、 原材料及び貯蔵品 +379ほか
固定資産	11,291	11,889	+597	建設仮勘定 +381、ソフトウェア仮勘定 +133、 投資有価証券 +118ほか
資産合計	28,319	31,698	+3,378	
流動負債	2,584	3,416	+831	買掛金 +361、未払法人税等 +286,賞与引当金 +230ほか
固定負債	2,293	2,321	+27	リース債務 △13、繰延税金負債 +43ほか
負債合計	4,877	5,737	+859	
純資産合計	23,441	25,960	+2,519	利益剰余金 +2,152、 その他有価証券評価差額金 +143、 為替換算調整勘定 +208ほか
負債・純資産合計	28,319	31,698	+3,378	

2026年12月期業績の見通し

8月時点の業績見通しに対して第3四半期はほぼ計画通りの進捗、通期見通しも変更なし

（単位：百万円）

＜為替感応度＞ 売上高80百万円/円 営業利益30百万円/円	2025年12月期 実績	2026年12月期（計画） 当初予想	修正予想（8月）	修正予想の前期実績比	
売上高	17,454	19,613	22,238	+4,784	+27.4%
リード端子事業	8,802	10,356	11,349	+2,547	+28.9%
光部品・デバイス事業	8,651	9,257	10,888	+2,236	+25.9%
営業利益	4,624	5,404	6,754	+2,130	+46.1%
営業利益率	*26.5%*	*27.6%*	*30.4%*	*+3.9pt*	-
リード端子事業	766	1,125	1,178	+412	+53.8%
光部品・デバイス事業	3,857	4,279	5,575	+1,717	+44.5%
経常利益	4,547	5,247	6,888	+2,341	+51.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,992	3,536	4,618	+1,626	+54.3%
1株当たり当期純利益（円）	114.73	136.51	178.29		
為替レート（期中平均）	149.62円/$	150.00円/$	160.00円/$	（※160.00円/$は、下半期の見通し）	

＜現時点の状況＞

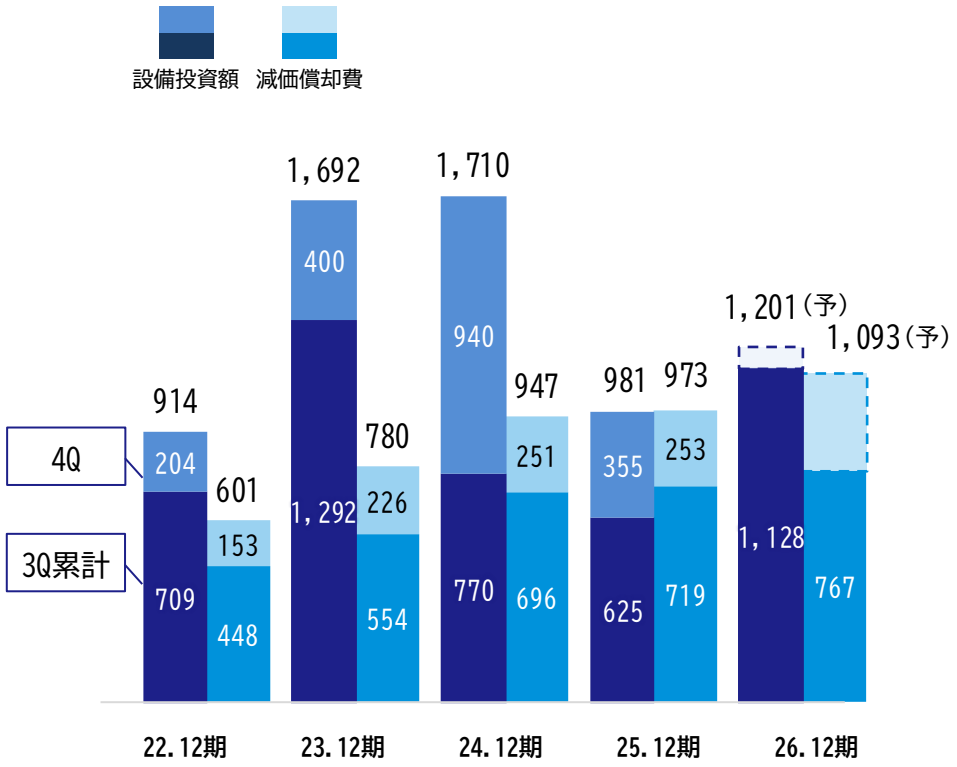
- リード端子事業：自動車市場向けは緩やかな回復傾向、PC市場は厳しいがAIサーバー向け急成長が続く
- 光部品･デバイス事業：海底ケーブル市場は高成長継続。ケーブル敷設会社各社が急ピッチで増産体制を進めており、8月時点の計画に対して順調な進捗状況

※＜為替感応度＞は、1米ドルに対して1円の変動が1年間続いた場合の試算値

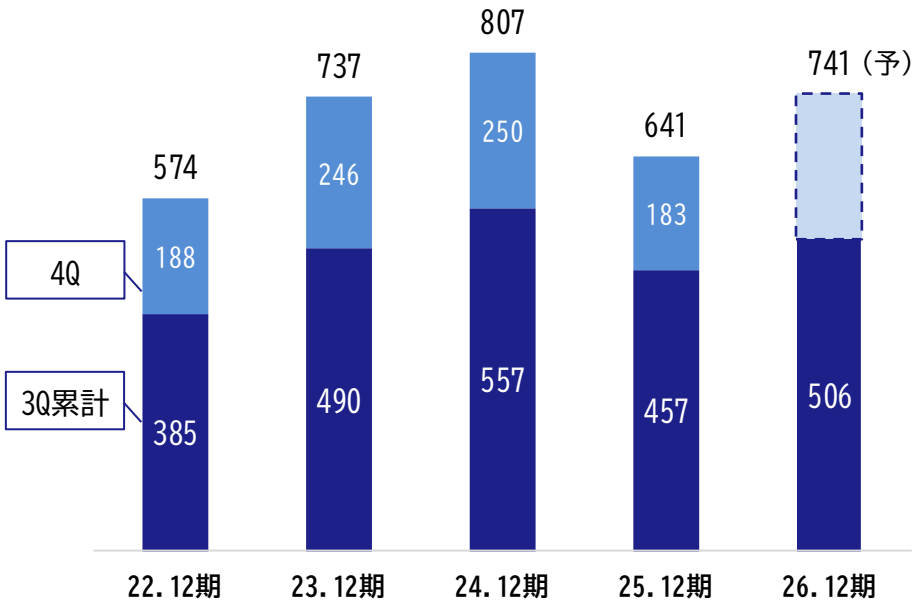
設備投資・減価償却・研究開発(3Q累計)

海底ケーブル用光部品・デバイスの生産能力増強を一部前倒し
リード端子レーザー溶接機、光部品・デバイスの脱炭素投資ほか若干の時期ずれが発生

設備投資額・減価償却費（百万円）



研究開発費（百万円）



Ⅱ．セグメント別の状況（リード端子）

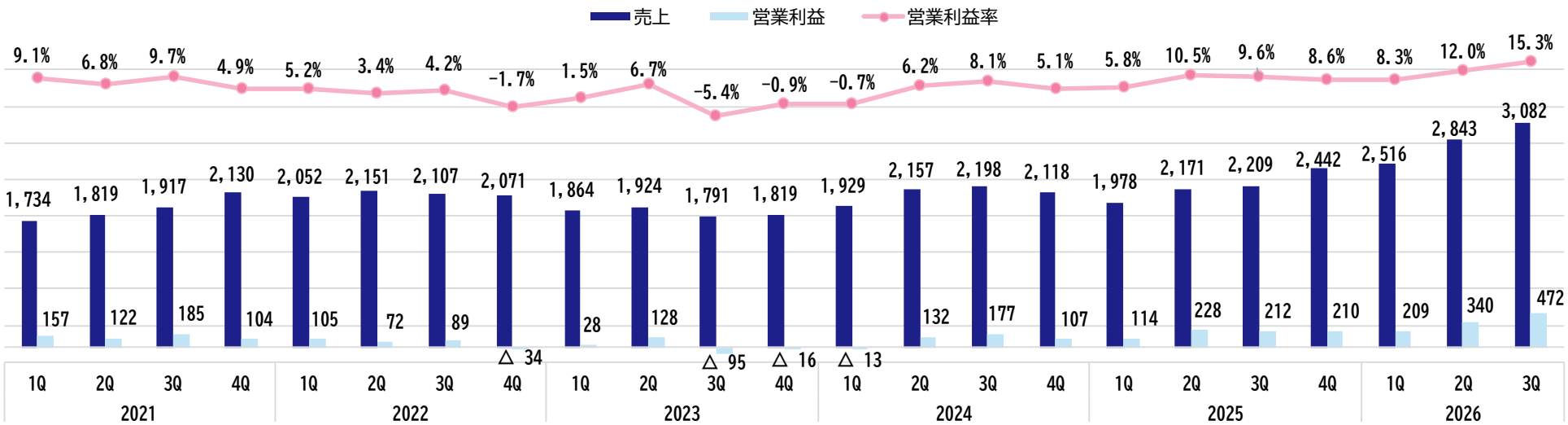
セグメント別業績(3Q累計)

- 自動車市場の回復と、生成AIサーバー関連市場成長が牽引し、売上増加傾向続く
- 売上の増加・生産効率改善・適正価格の設定により収益力についても順調に改善

＜前年同期比較＞　＜前四半期比較＞　（単位：百万円）

	2025年12月期	2026年12月期			2026年12月期				
	3Q累計 (1月-9月)	3Q累計 (1月-9月)	対前年同期増減	前年同期比	1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	対前四半期増減	直前四半期比
売上高	6,359	8,442	+2,082	+32.8%	2,516	2,843	3,082	+238	+8.4%
営業利益	555	1,021	+465	+83.8%	209	340	472	+132	+38.9%
営業利益率	*8.7%*	*12.1%*	*+3.4pt*	—	*8.3%*	*12.0%*	*15.3%*	*+3.4pt*	—

売上高、営業利益、営業利益率（百万円、%）

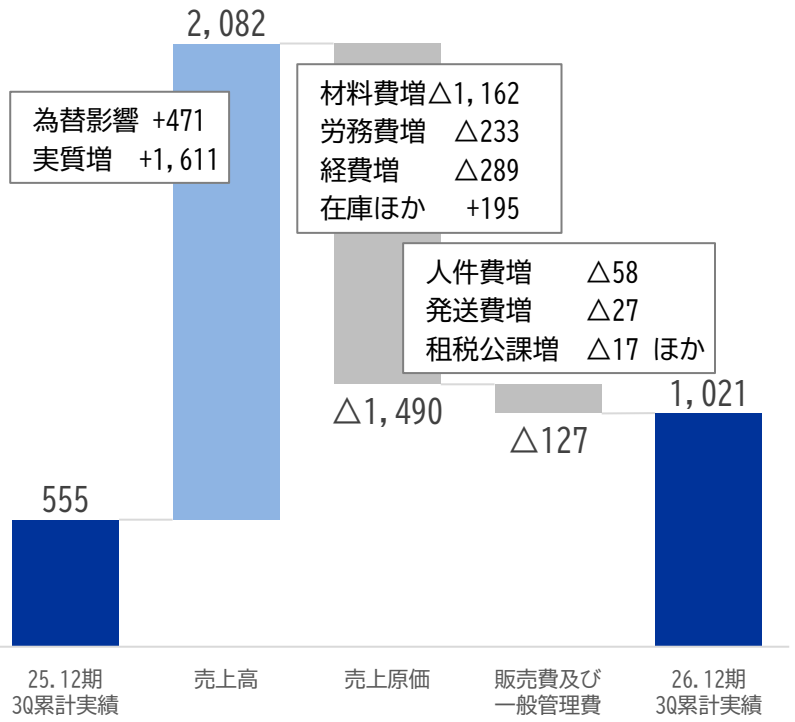


営業利益(3Q累計)の増減要因

前年同期比

売上増加が原材料価格の上昇を吸収し、増益確保

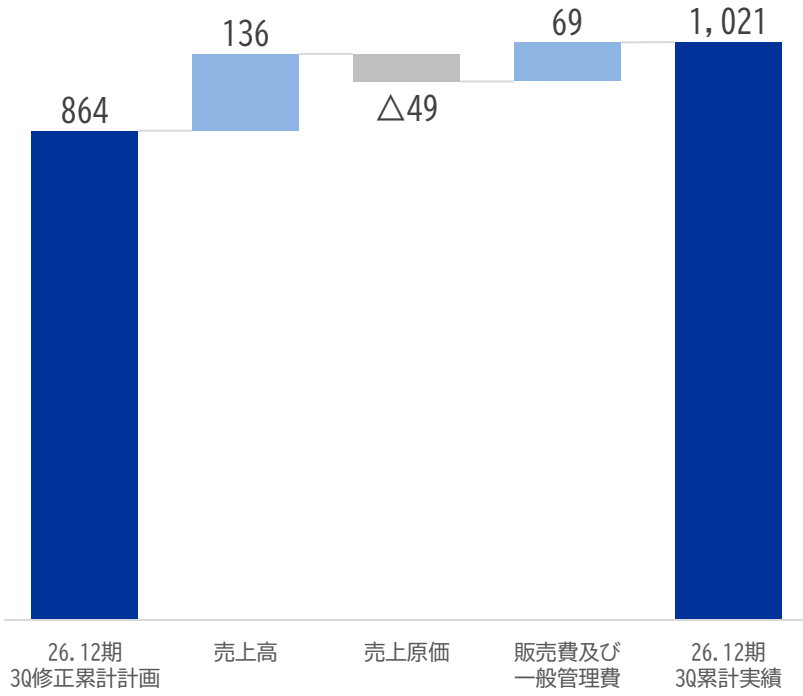
(単位：百万円)



計画比（中間実績+8月時点3Q修正計画との対比）

自動車市場に明るさが見え始め計画比若干プラスで着地

(単位：百万円)



リード端子事業の見通しに対する進捗状況

自動車市場の緩やかな回復とAIサーバー市場の急成長続く。PC市場は非常に厳しい状況が続くが、全体として8月時点の見通しを若干上回る状況で推移

セグメント業績

（単位：百万円）

	2025年12月期	2026年12月期（通期）			
	実績	当初予想	修正予想（8月）	対前年増減	前年比
売上高	8,802	10,356	11,349	+2,547	+28.9%
営業利益	766	1,125	1,178	+412	+53.8%
営業利益率	*8.7%*	*10.9%*	*10.4%*	*+1.7pt*	—

2026年12月期4Qの見通し

・自動車市場向けの回復に加えてAIサーバー向けが想定以上の伸び続く

・PC市場、民生機器市場は非常に厳しい状況が継続していると推定

・レーザー溶接品の引き合いが増加、2027年4月からの本格量産を目指す

当社の状況と収益改善への取組み

当社の経営環境

	26年12月期当初（2月時点）コメント	2026/8月時点の下期見通し	現在の状況と今後の見通し
（1）生産	● 本社工場で自動化・省人化を推進 ● 2026年年度OEE改善目標 87% ・調整不良削減 ・海外工場間での水平展開強化	➢ 高付加価値製品の生産能力増強と生産効率改善を継続 ➢ 年間目標達成に向けて改善活動を継続	➢ 生産量の回復に伴い、稼働率は徐々に上昇 ➢ 3Q OEE 85.7%（連結）、年間目標に向けて改善活動が順調に進捗
（2）売上	● グローバルで受注拡大を進める ● 高付加価値製品の量産受注を強化	➢ 海外市場での受注増加バリレス等、高付加価値製品の売り込みを強化 ➢ AIサーバー・車載向け高付加価値リード端子の売り込みを強化	➢ 海外市場での受注は引続き低調、PC市場向け売上の大幅減少が続く ➢ AIサーバー向け、車載向けともに、日系顧客向けが大きく増加
（3）技術	● 2026年2月、顧客仕様ニッケルメッキタイプのサンプル出荷開始(レーザー溶接品) ● サンプルアイテム拡大と量産体制構築 ● 車載・生成AI向けに重点を置いた樹脂コーティング、特殊化成品の売上拡大	➢ 7月、顧客仕様のニッケルメッキタイプのサンプル提示 ➢ 引続き、低抵抗等の高付加価値アイテムの売り込みを強化	➢ レーザー溶接、顧客からの引き合い増加、27年4月量産を目標 ➢ 日系顧客向け漏れ電流対策品の売上増加

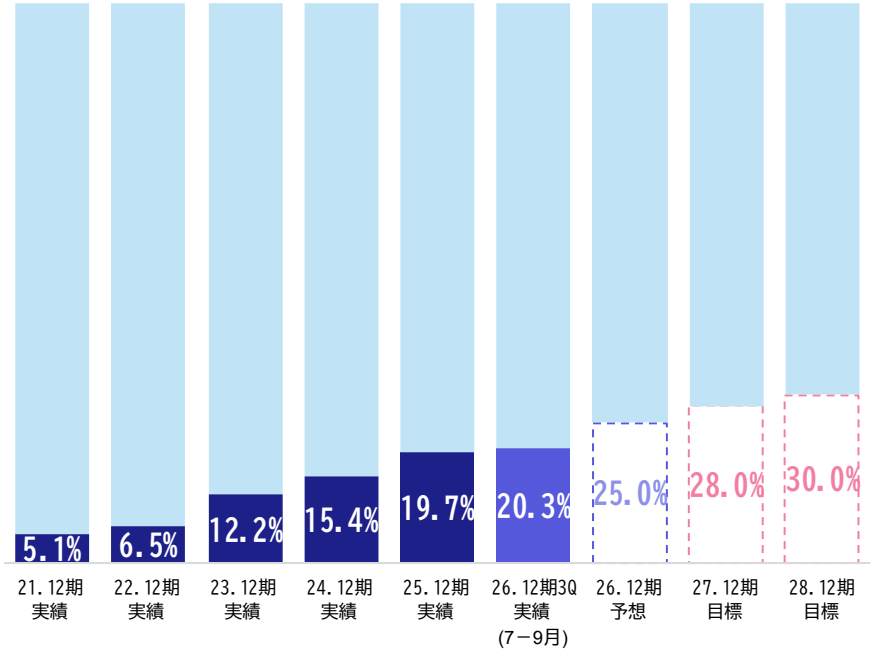
市場開拓による事業規模の拡大

車載関連市場向け及びAIサーバー向け高付加価値製品の引き合いが増加傾向だが、PC市場の低迷等により高付加価値製品の需要が伸びず

高付加価値製品の売上比率

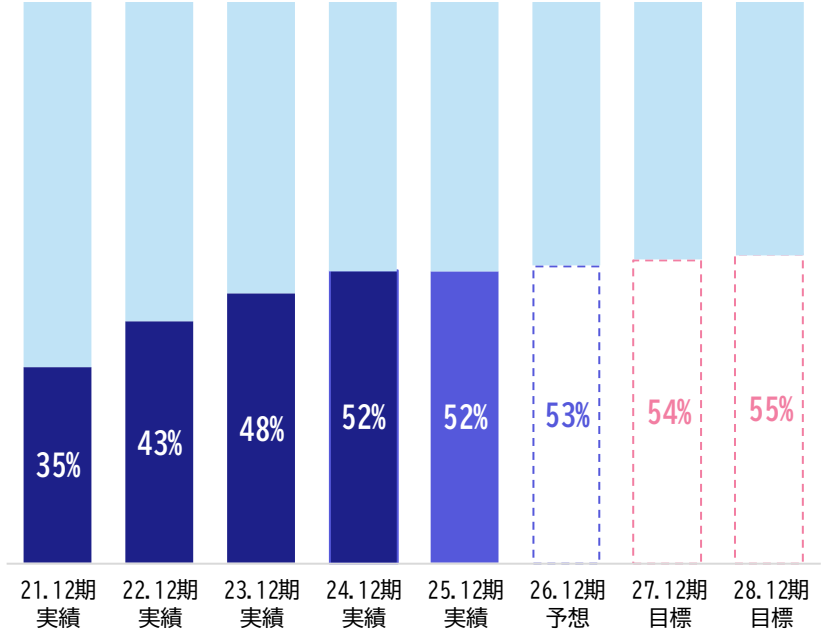


- 生成AIサーバー関連向けバリレス他拡販強化
- レーザー溶接技術品（ニッケルメッキ品他）の開発強化



自動車市場向け売上比率（推定値）

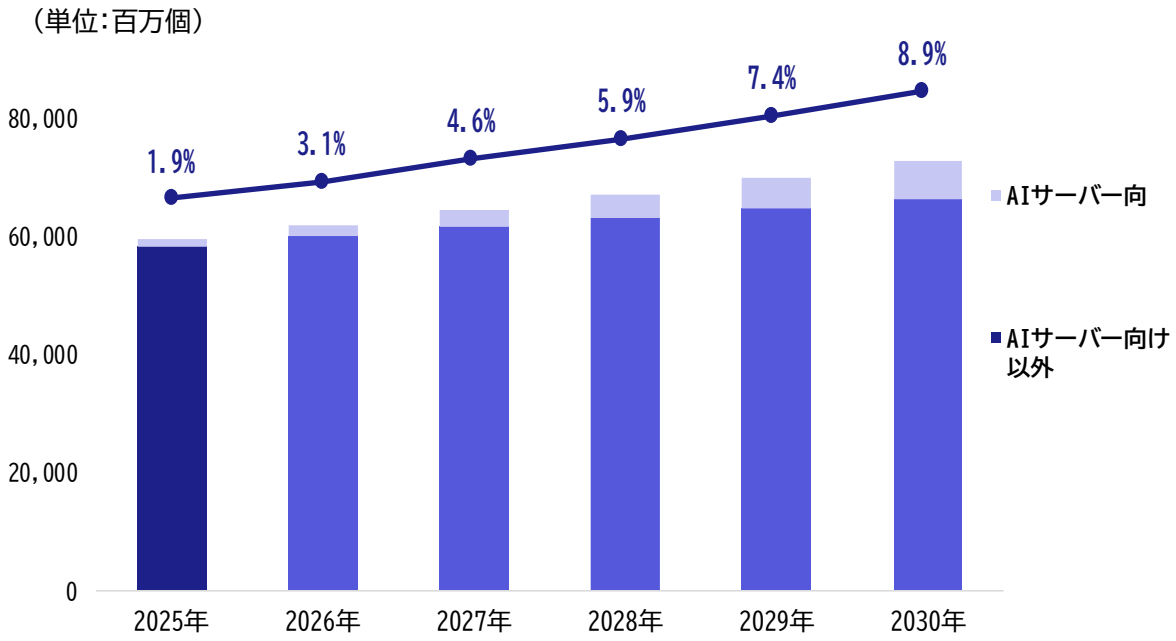
- 車載市場（駆動系）向けグローバルマーケットシェア95%維持
- 海外車載市場、AIサーバー・データセンタ市場での拡販を進める



AIサーバー市場の動向と当社の状況

AIサーバー市場向けリード端子の売上が急成長、市場の伸びより高い伸びを示す

小型アルミ電解コンデンサ市場とAIサーバー向け比率の推移予想



市場予想の前提
・コンデンサ市場全体の予想は、当社調査に基づく2025年のコンデンサ市場規模に、市場調査機関の予想伸び率を参照し、CAGR４％と仮定
・AIサーバー市場向けコンデンサ市場規模と伸び率については、顧客ヒアリングに基づき当社作成

AIサーバー向け売上比率（推定）

2026年 9月時点：約10%

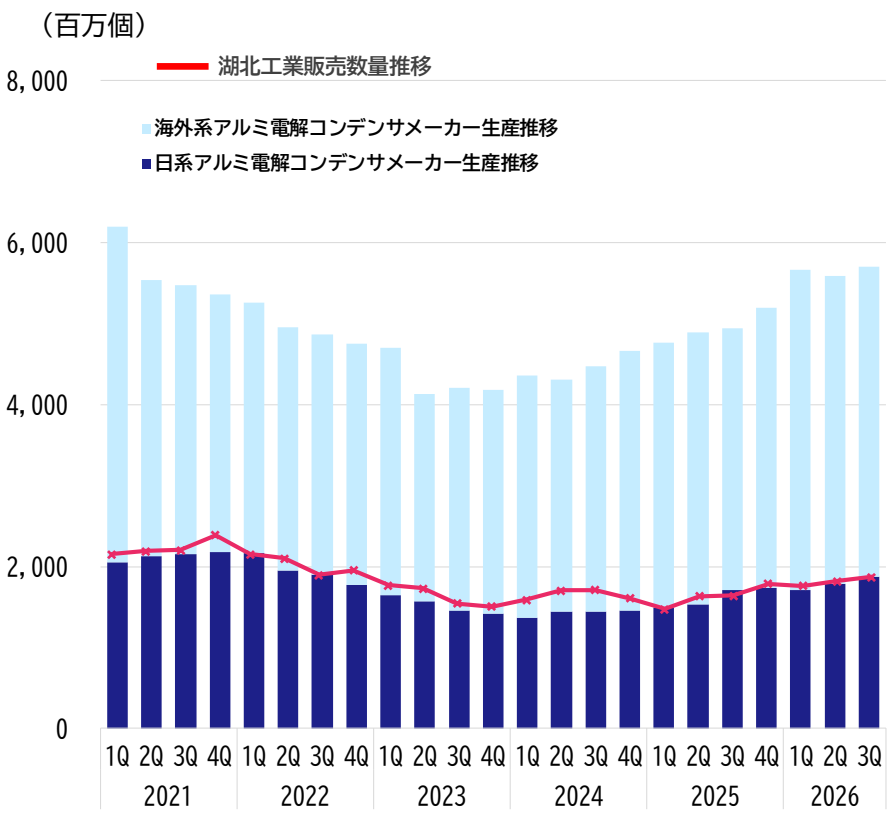
6月時点：約7%

3月時点：約3%

事業環境

自動車市場向けが回復傾向、AIサーバー関連向けの急成長もあり市場に明るさが見えてきた

小型アルミ電解コンデンサのグローバルマーケットと当社の販売数量推移



市場動向・営業施策

＜自動車関連市場＞

- 欧州市場は底打ち、中国国内市場は低迷続く、中国EVの欧州向け輸出好調
- インド・ブラジル等新興国市場は引続き好調
- ハイブリッドコンデンサ、固体コンデンサなど高機能コンデンサの生産数量は増加傾向。

＜　AIサーバー・データセンタ市場＞

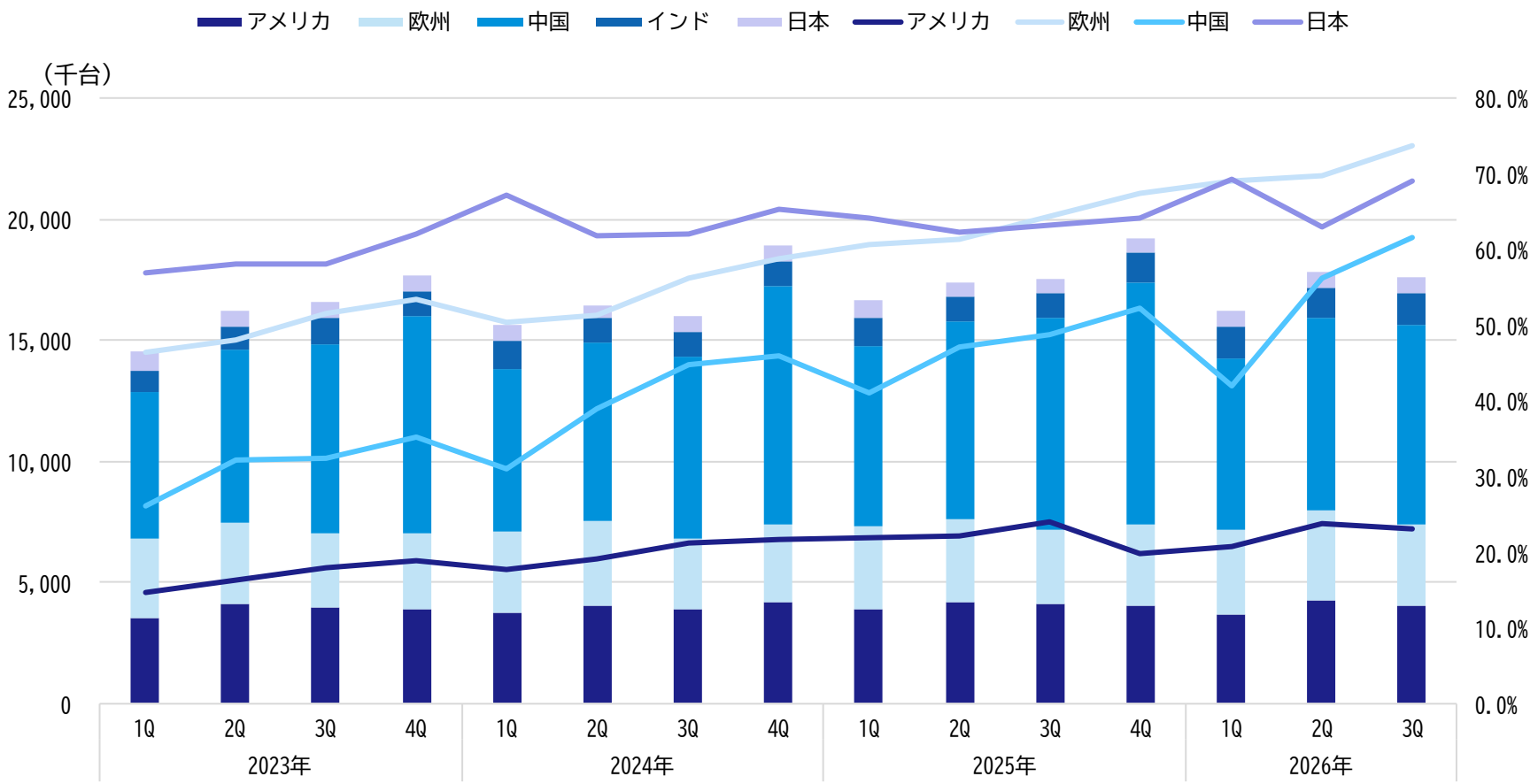
- AIサーバー向けは日系コンデンサメーカー向けが急増
- ハイブリッドコンデンサ、固体コンデンサ新製品向けリード端子の引き合いが増加、今後の継続的な売り上げ拡大に期待

＜民生機器市場ほか＞

- 原材料価格上昇の影響、中国での景気停滞等により民生機器市場は厳しい状況が続く
- PC市場向けは非常に厳しい状況が継続、現時点において回復の兆しが見えず

※リード端子はコンデンサ1個あたり2個仕様の為、コンデンサ数量に換算して表示
※アルミ電解コンデンサ生産数量は各四半期ごとの最終月の実績、リード端子販売数量は四半期における月平均（当社推定）

世界主要市場の自動車（乗用車）新車販売台数、NEV比率の推移



出所：自販連、Argonne National Laboratory、acea、CAA、SIAM
＊NEVにはＨＶ（HEV）、ＰＨＶ、ＥＶ、ＦＣＶを含む

Ⅲ．セグメント別の状況（光部品・デバイス）

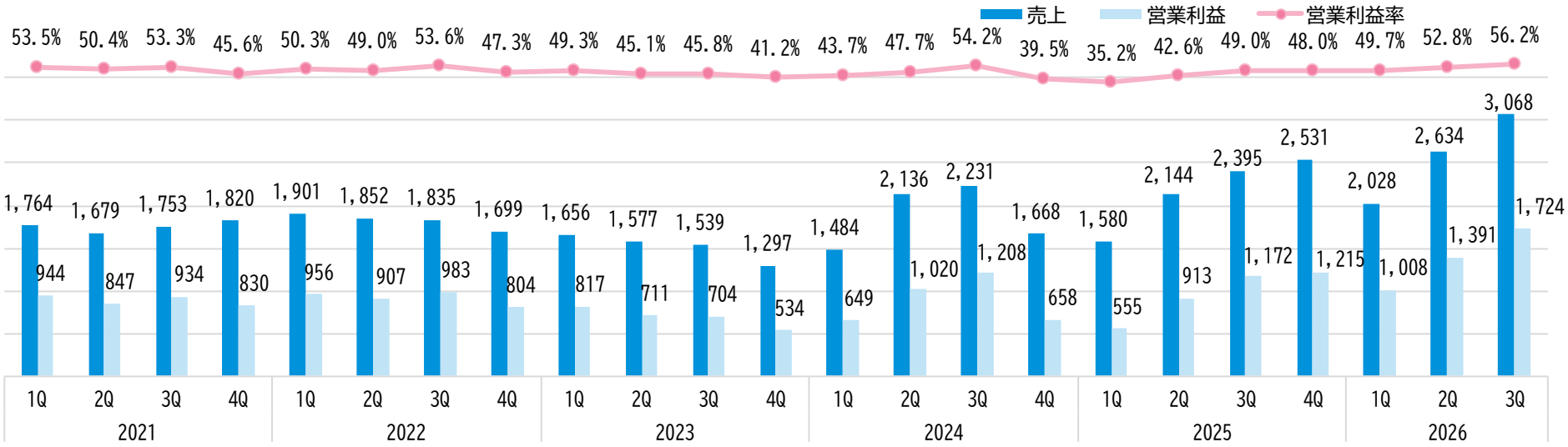
セグメント別業績(3Q累計)

海底ケーブル各社が生産体制を強化、8月時点の計画に対してほぼ想定通りの進捗

＜前年同期比較＞　＜前四半期比較＞　（単位：百万円）

	2025年12月期 3Q累計 (1月-9月)	2026年12月期 3Q累計 (1月-9月)	対前年同期増減	前年同期比	2026年12月期 1Q (1月-3月)	2Q (4月-6月)	3Q (7月-9月)	対前四半期増減	直前四半期比
売上高	6,120	7,731	+1,611	+26.3%	2,028	2,634	3,068	+434	+16.5%
営業利益	2,642	4,124	+1,481	+56.1%	1,008	1,391	1,724	+332	+23.9%
営業利益率	*43.2%*	*53.3%*	*+10.2pt*	—	*49.7%*	*52.8%*	*56.2%*	*+3.3pt*	—

売上高、営業利益、営業利益率（百万円、%）

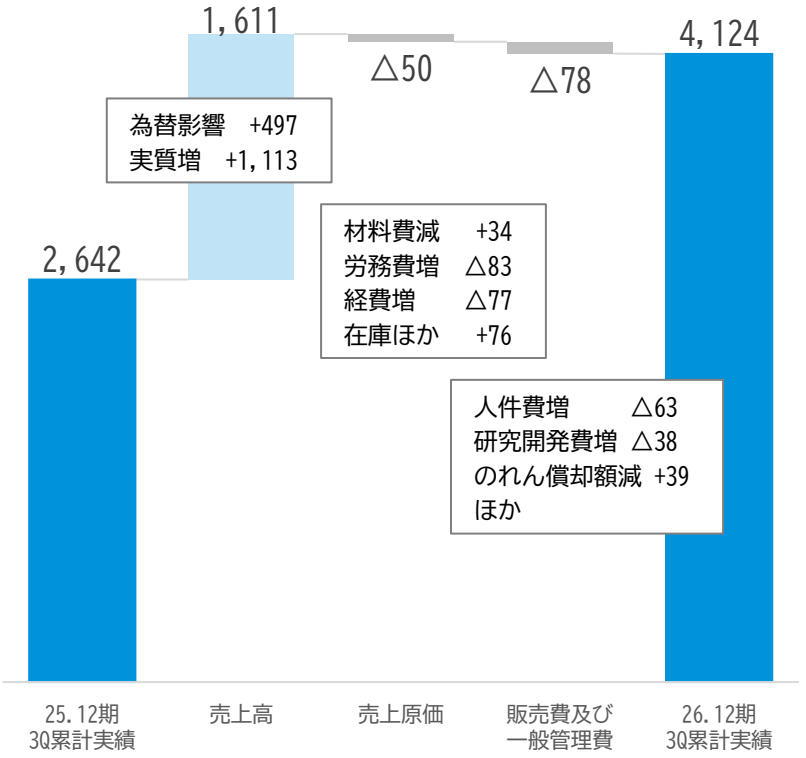


営業利益(3Q累計)の増減要因

前年同期比

売上増加と製品ミックスの変化により、大幅増益

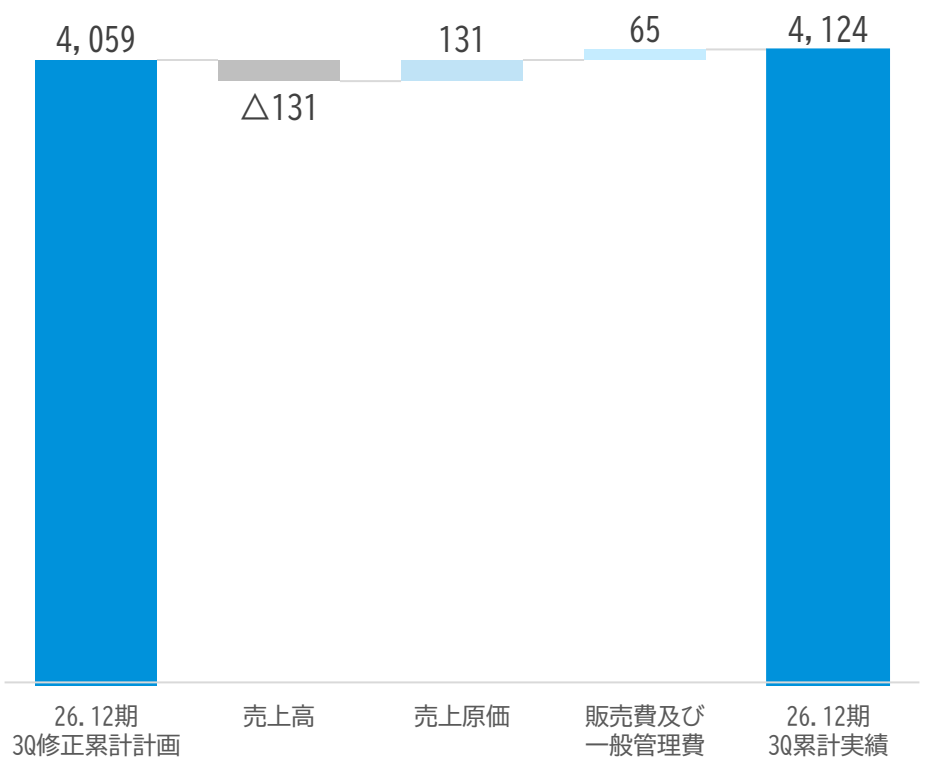
（単位：百万円）



計画比（中間実績+8月時点3Q修正計画との対比）

一部顧客向け売上時期ずれと製品ミックスの改善が相殺し、ほぼ計画通りの着地

（単位：百万円）



当社の状況と収益改善への取組み

当社の経営環境

	26年12月期当初（2月時点）コメント	2026/8月時点の下期見通し	現在の状況と今後の見通し
(1)製品開発	● 複合品・モジュール品の評価進行、2026年から量産開始予定	➢ 複合光デバイスの生産販売は、期初想定に対して大幅増額	➢ 複合光デバイスの売上はさらに増加傾向
	● 小型アイソレータの販売比率上昇、多芯化に向けて採用拡大	➢ モジュール品はライフテスト、その後生産販売へ移行	➢ モジュール品の評価は進捗、安定供給体制の強化を進める
		➢ マルチコアファイバ向けFIFOデバイス、2026年末から陸上向けに生産販売	➢ FIFOデバイス、予定通り12月から陸上向けに発売予定
	● PLZTを用いた高速光スイッチの開発進行	➢ 小型アイソレータが主流となるが、顧客事由により従来型もある程度残る見通し	➢ 小型アイソレータ売上比率は80%の水準で安定
		➢ 米国の前工程を９月に本社工場へ移設予定	➢ 米国の設備移設、10月から一部稼働開始。来年2月に完了予定
(2)生産性他	● 半自動装置を活用し生産効率改善、生産能力拡大	➢ 半自動装置3号機を2027年立ち上げ、生産能力をさらに増強	➢ 設備納入に若干の遅れ、2027年下期から立ち上げ予定
	● データセンタ向け光部品の生産能力増強、売上増加	➢ 光部品前工程の能力増強投資を進め、2027年はさらなる売上増加を見込む	➢ 既存設備の歩留まり改善により光部品は若干の売上上乗せ
	● 高純度石英ガラス（SSG®）製品の売上増加	➢ 半導体関連、特殊プリフォーム分野で重点拡販を継続	➢ 能力増強投資は計画通り、現在設備立ち上げ中
		➢ 2027年に向けてさらなる能力増強投資を検討	➢ 重点顧客向け評価進捗、細部仕様調整中

光部品・デバイス事業の見通し

一部顧客の増産予定に調整が発生しているが、8月時点の計画に対しほぼインラインの着地見通し

（単位：百万円）

	2025年12月期	2026年12月期（通期）			
	実績	当初予想	修正予想（8月）	対前年増減	前年比
売上高	8,651	9,257	10,888	+2,236	+25.9%
営業利益	3,857	4,279	5,575	+1,717	+44.5%
営業利益率	*44.6%*	*46.2%*	*51.2%*	*+6.6pt*	—

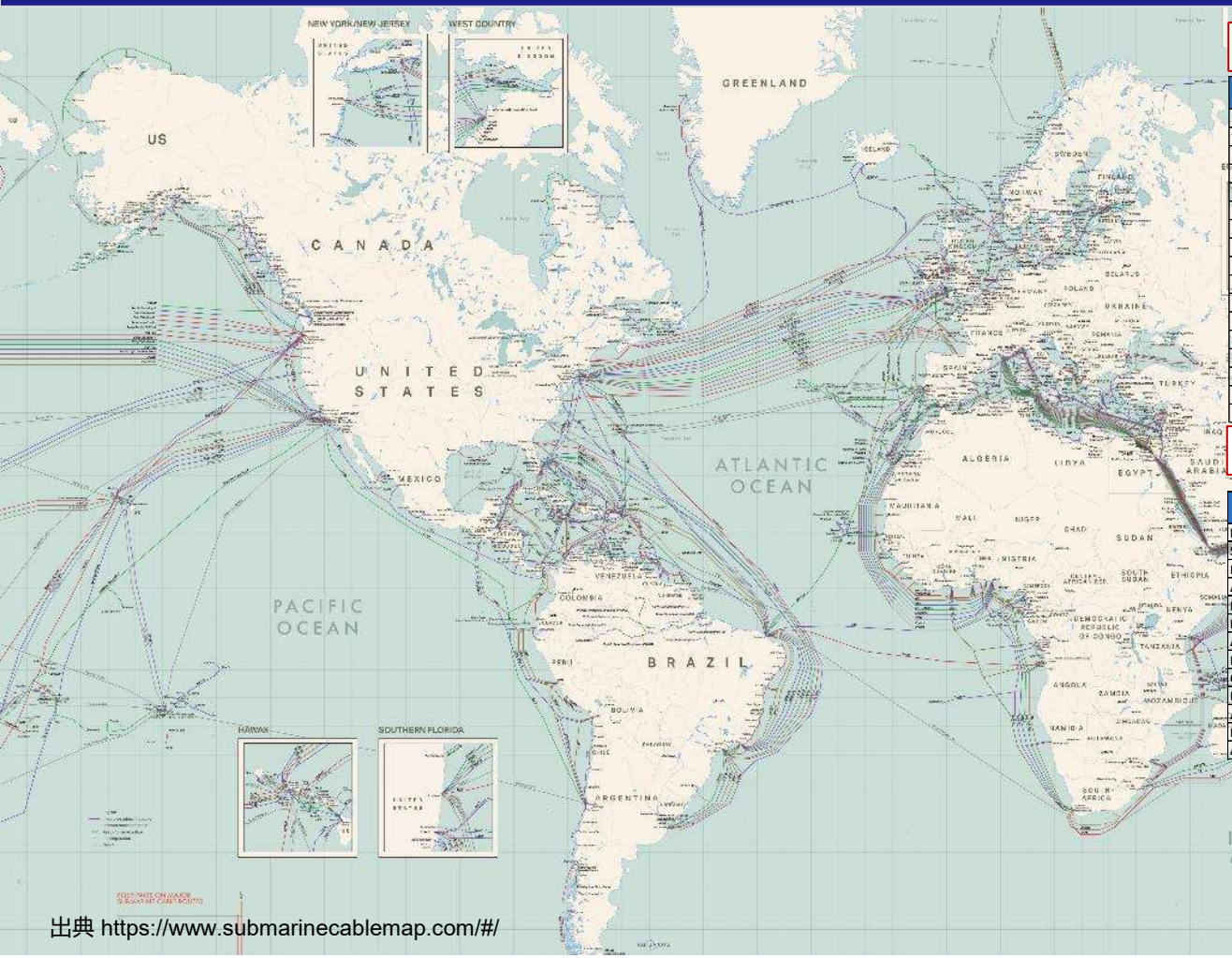
＜2026年12月期4Qの見通し＞

- 海底ケーブル向け光部品・デバイスの受注は3Qからさらに積みあがる傾向
- 受注増に対応し、スリランカ工場の人員をさらに増強
- 多芯化の加速により、複合デバイスの売上比率が想定以上の上昇
- レアアース等の材料価格高騰の影響は軽微、調達強化により安定供給体制を維持

海底ケーブルネットワークの長距離化、大容量化が進展

長距離海底ケーブルシステムの全体図

＊図中の各線が海底ケーブル



出典 https://www.submarinecablemap.com/#/

<24FP以上の大容量プロジェクト>

プロジェクト	サービス開始	オーナー	距離	FP数
IOEMA-1	2029	IOEMA Fibre	1,667	48
Trans-Caspian Fiber Optic Cable	2026	Sumgait, Azerbaijan Aktau, Kazakhstan	380	32
Project Waterworth	2028	Meta	50,000	24
APX East-2	2029	Piti, Guam Los Angeles, CA, United States	10,000	24
APX North	2029	Sydney, NSW, Australia Piti, Guam Shima, Japan	9,500	24
Candle	2028	Globe Telecom, IPS, Inc., Meta, Softbank,.....	8,000	24
Aurora	2028	Blaabjerg, Denmark Manasquan, NJ, United States	7,268	24
Petal	2029	Le Porge, France Virginia Beach, VA, United States	7,000	24
EXA Meridian	2029	Brean, United Kingdom.....	6,552	24
APX West	2029	Perth, WA, Australia Batam, Indonesia Jakarta.....	4,600	24
Daraja	2026	Meta, Safaricom	4,108	24
Fibre in Gulf (FIG)	2027	Ooredoo	1,931	24
Norte Conectado (Infovia02)	2026	Brean, United Kingdom Wall Township, NJ.....	1,796	24
Hawaiian Islands Fiber Link (HIFL)	2026	Ocean Networks, University of Hawai'i	740	24
Norte Conectado (Infovia04)	2026	Boa Vista, Brazil Caracarai, Brazil Moura, Brazil.....	516	24
Ebla	2028	Cyta, Syrian Telecommunications Establishment.....	236	24
INSICA	2026	Singtel, Telin	100	24

<10,000km以上の長距離プロジェクト>

プロジェクト	サービス開始	オーナー	距離	FP数
Project Waterworth	2028	Meta	50,000	24
SeaMeWe-6	2028	Bahrain Telecommunications Company.....	21,700	10
Bulikula	2028	Google	21,600	N.A.
Asia Connect Cable-1 (ACC-1)	2029	Inligo Networks	19,000	16
Halaihai	2028	Google	17,483	16
Honomoana	2027	Google	15,215	16
APX East	-	SUBCO	13,000	N.A.
E2A	-	Chunghwa Telecom, SK Broadband, Softbank.....	12,500	12
ORCA	2027	Meta	12,482	6
Barat Timur Indonesia-2 (BTI-2)	2027	Super Sistem (PT Super Sistem Data)	11,600	N.A.
Africa-1	2027	G42, Mobily, Pakistan Telecommunications.....	10,000	8
Hawaiki Nui 1	2027	BW Digital	10,000	N.A.
APX East-2	2029	Piti, Guam Los Angeles, CA, United States	10,000	24

※出所）TeleGeography 「Submarine Cable Map」

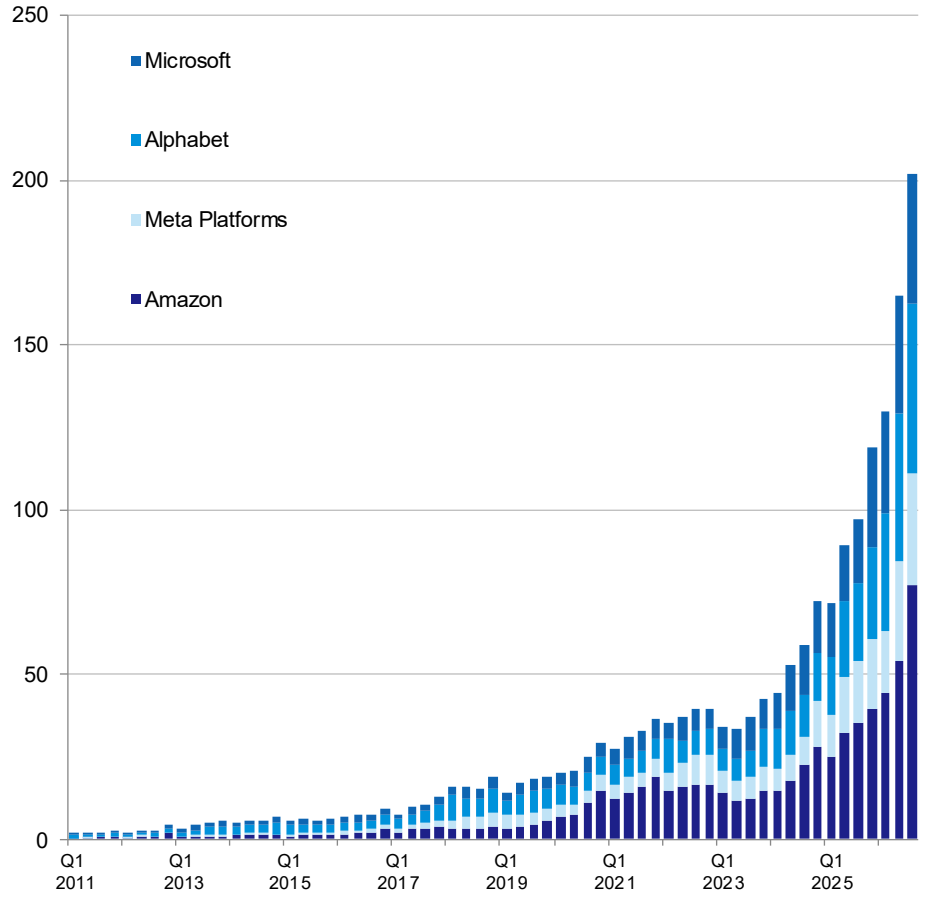
※プロジェクトの更新情報は公表データから推定したものです。

事業環境

海底ケーブルプロジェクトの増加、多芯化の進展に伴い、引き合いがさらに増加傾向

米国クラウド事業者の設備投資

（単位：十億ドル）



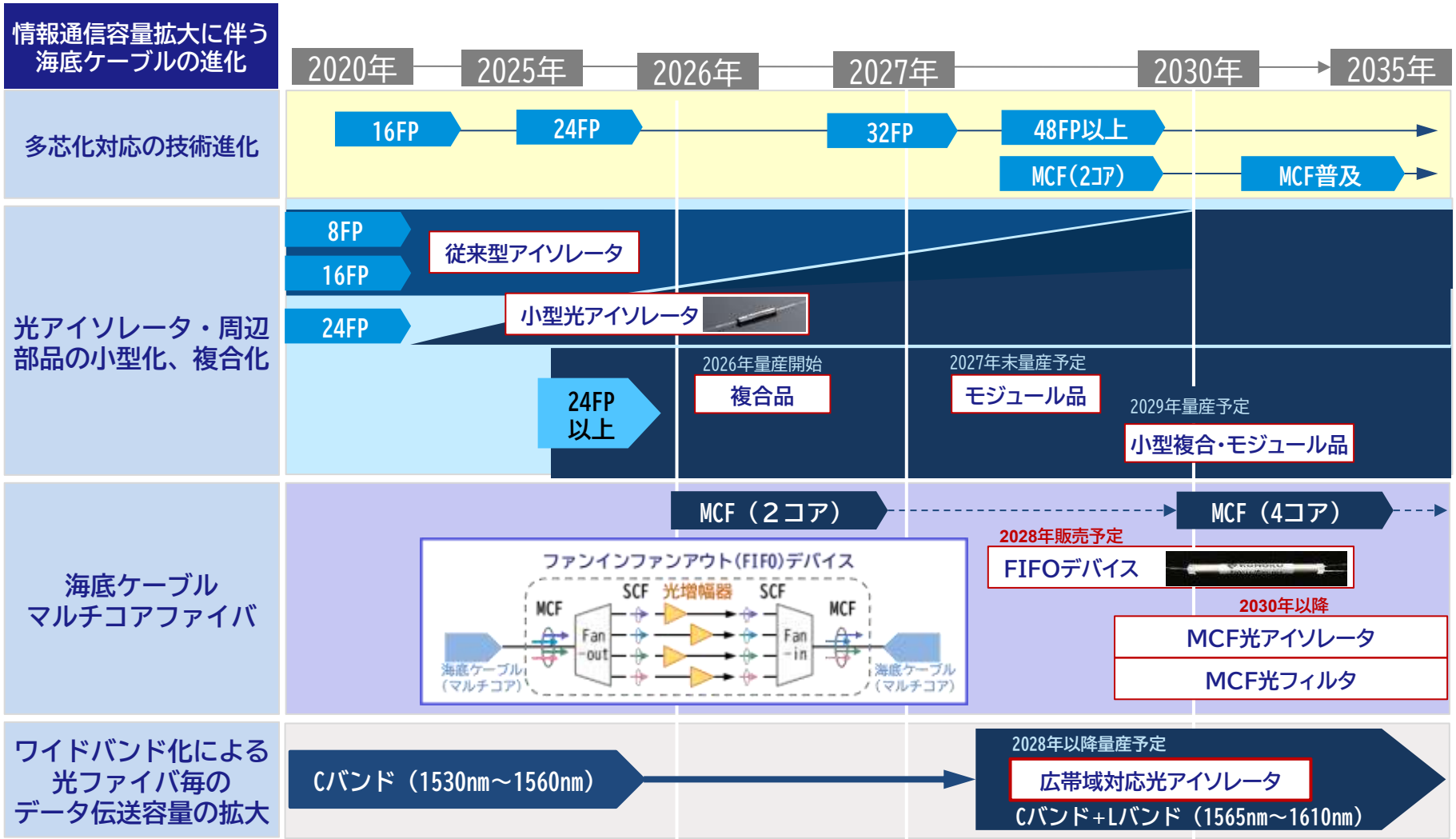
（出所：会社資料）

市場動向

- 海底ケーブル市場はプロジェクトの増加、多芯化等により拡大傾向続く
- 海底ケーブルの多芯化に伴い、小型アイソレータ・複合デバイスの需要が引き続き増加
- さらなる多芯化に向けて、小型モジュールのニーズが高まる。**2028年から売上増加予定**
- マルチコアファイバ対応製品は2026年12月、陸上用途向けから販売開始
- AIサーバー用光トランシーバ向けに光部品の需要は引続き増加、市場拡大が続く見通し

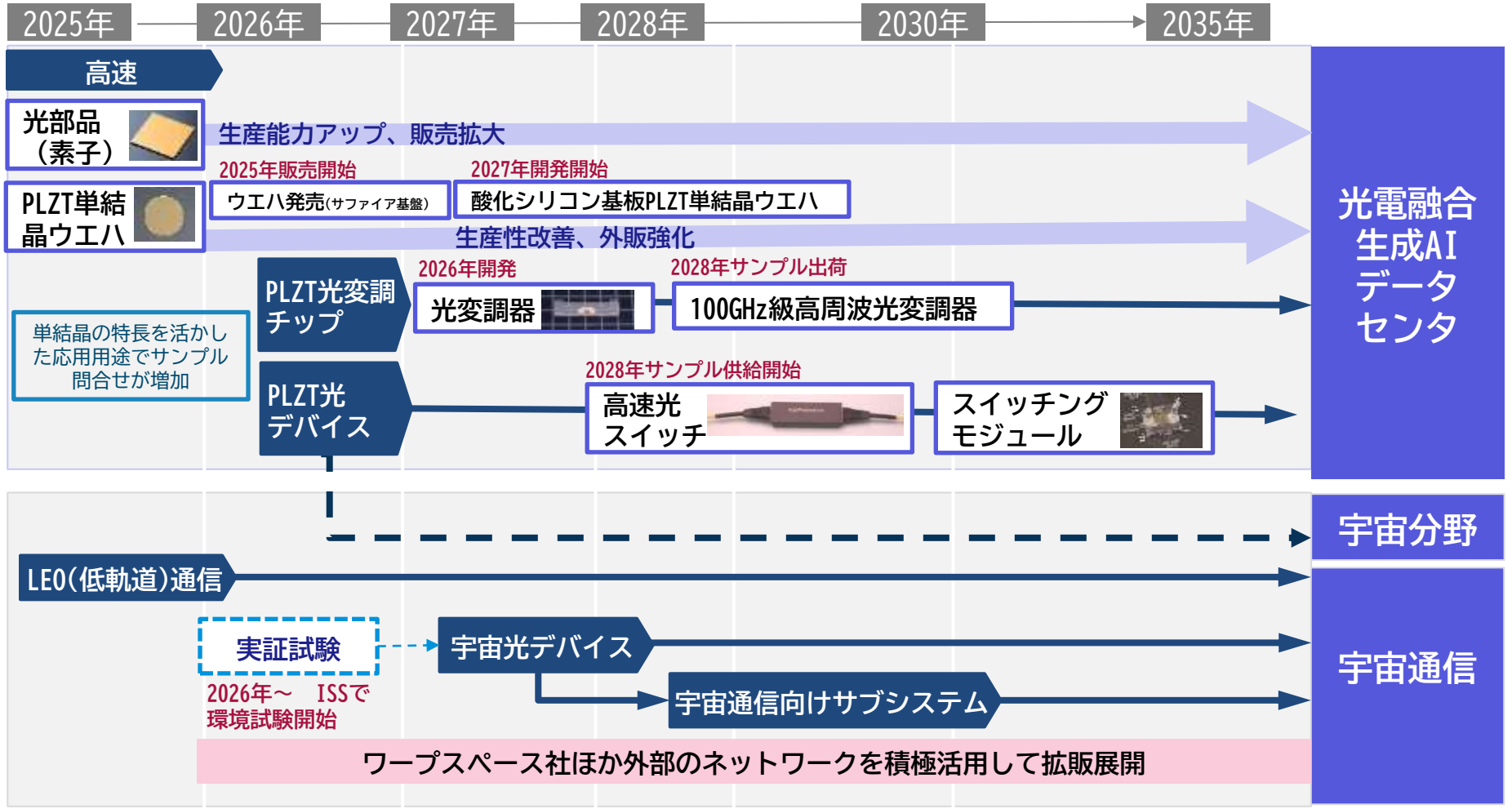
市場開拓による事業規模の拡大（光部品・デバイス事業）

海底ケーブルの多芯化の進行が加速、複合品・モジュール品の開発要求が増加



市場開拓による事業規模の拡大（光部品・デバイス事業）

PLZT単結晶ウエハの販売を開始、光電融合技術の進化に向けて大手通信機器メーカーの研究開発部門からの引き合いが増加



Ⅳ. 参考情報

トピックス

2026年10月26日
東証スタンダード市場から
プライム市場に移行いたしました。

今後とも、株主様、投資家様のご支援を
賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

＜これまでの経緯＞

2021年12月21日　東京証券取引所 市場第二部に新規上場

2022年 4月 4日　スタンダード市場へ移行

2026年10月26日　プライム市場へ移行

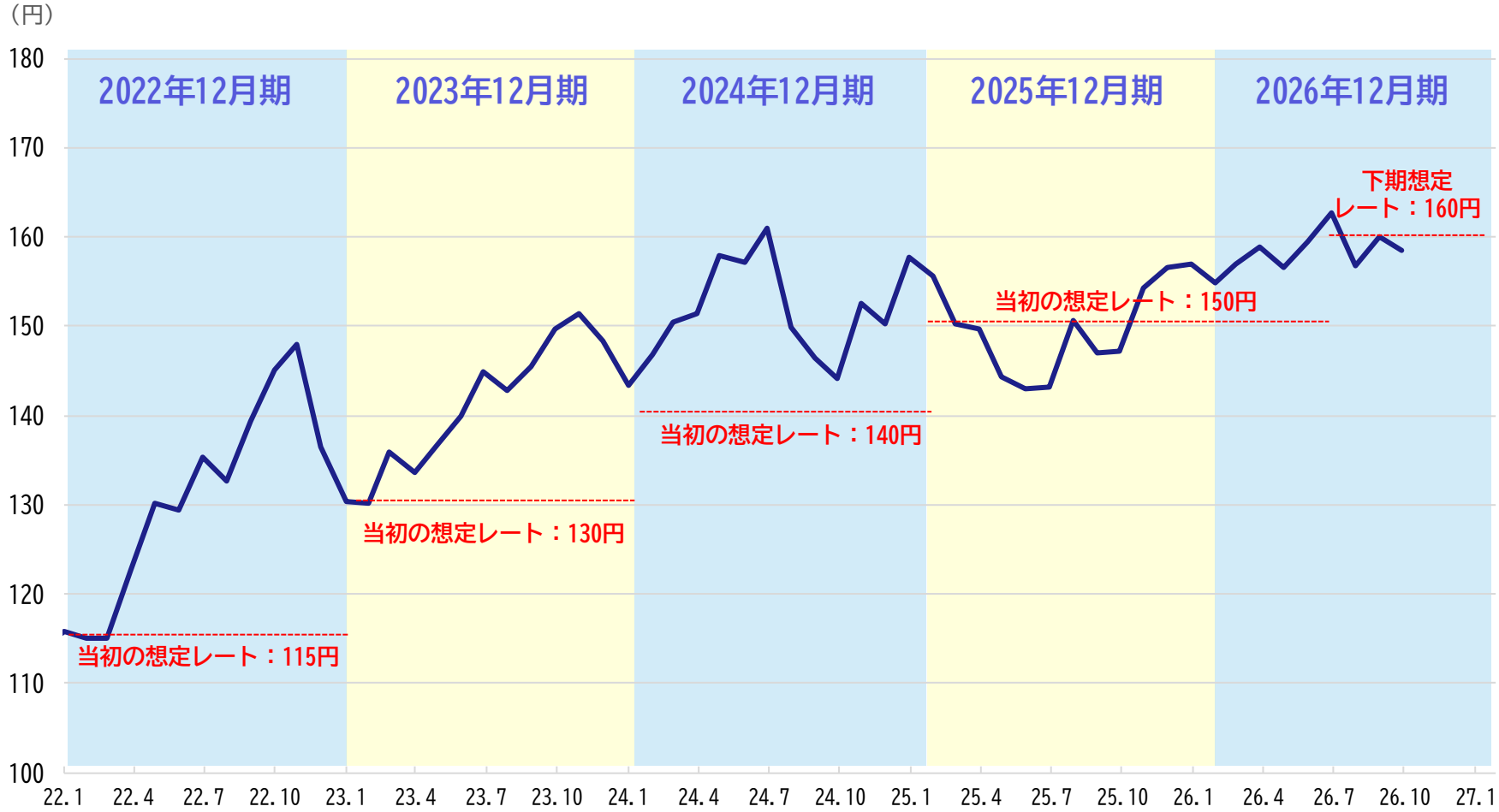


2026年10月30日　日本経済新聞掲載

2026年12月期(3Q)の事業環境

第3四半期累計期間における期中平均レートは、158.67円/USD

USD/JPYトレンドグラフ

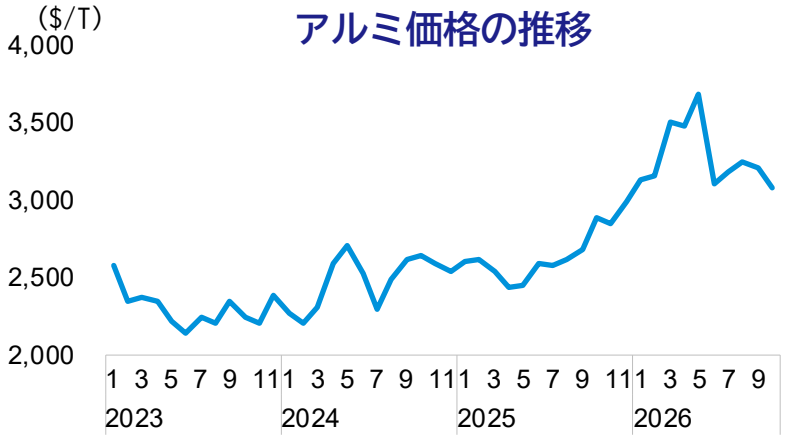


外部環境 - 非鉄金属相場の動向

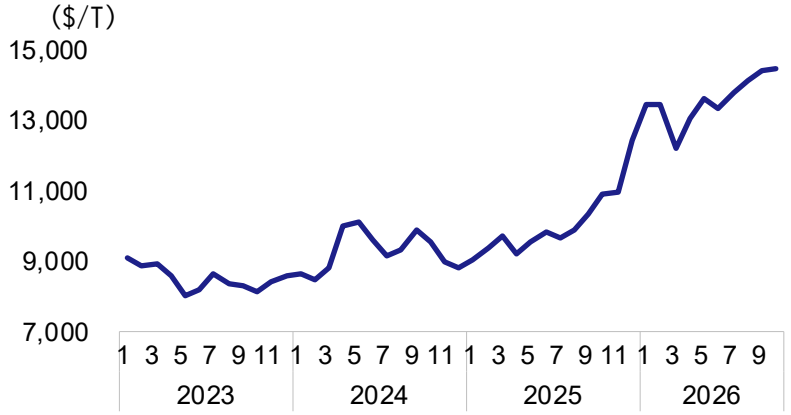
非鉄金属の市場価格は、下半期に入り沈静化の兆し。材料価格高騰によるコスト負担は原則3か月後に価格転嫁

非鉄金属相場（LME）の推移

アルミ価格の推移



銅価格の推移



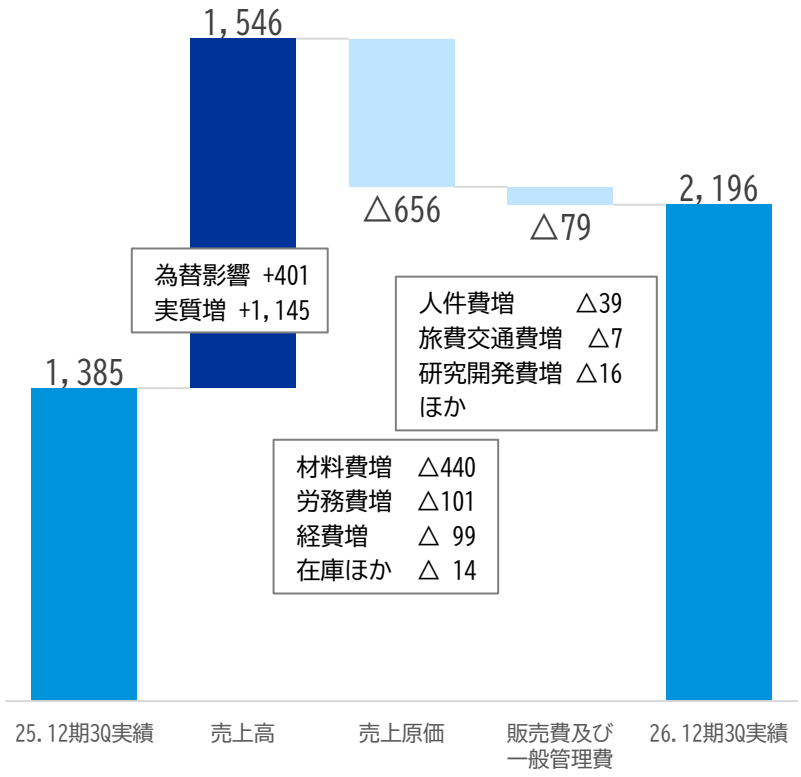
錫価格の推移



営業利益 3Q（7－9月）の増減要因

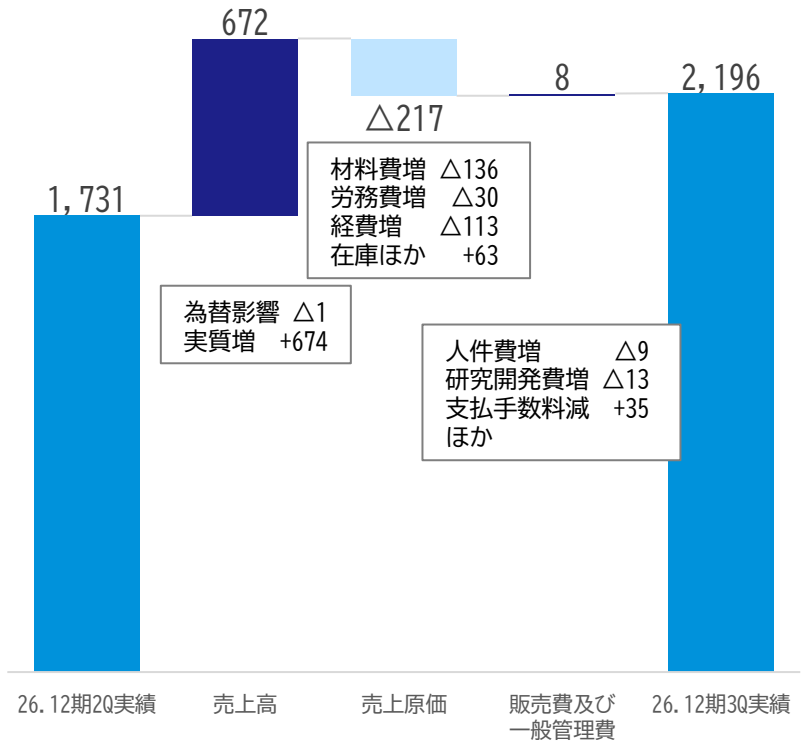
前年同期比

（単位：百万円）



前四半期比

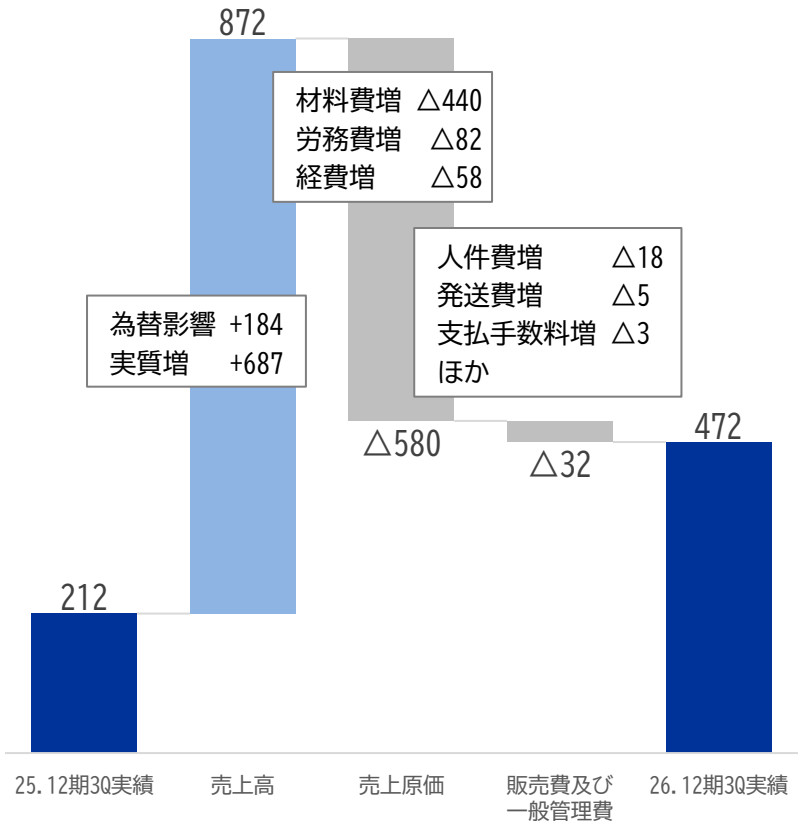
（単位：百万円）



営業利益 3Q（7－9月）の増減要因

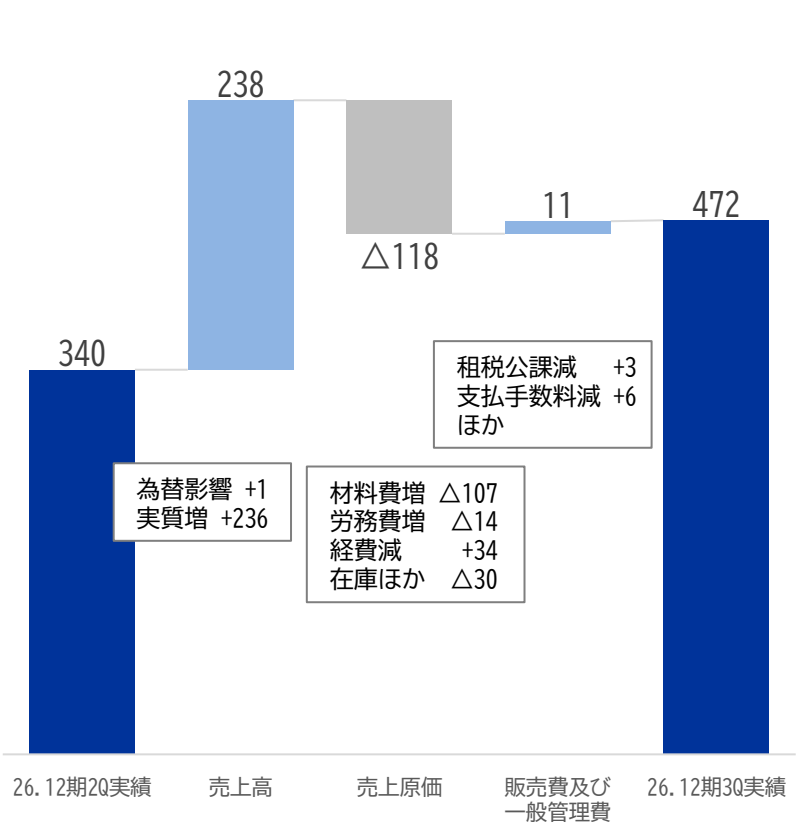
前年同期比

（単位：百万円）



前四半期比

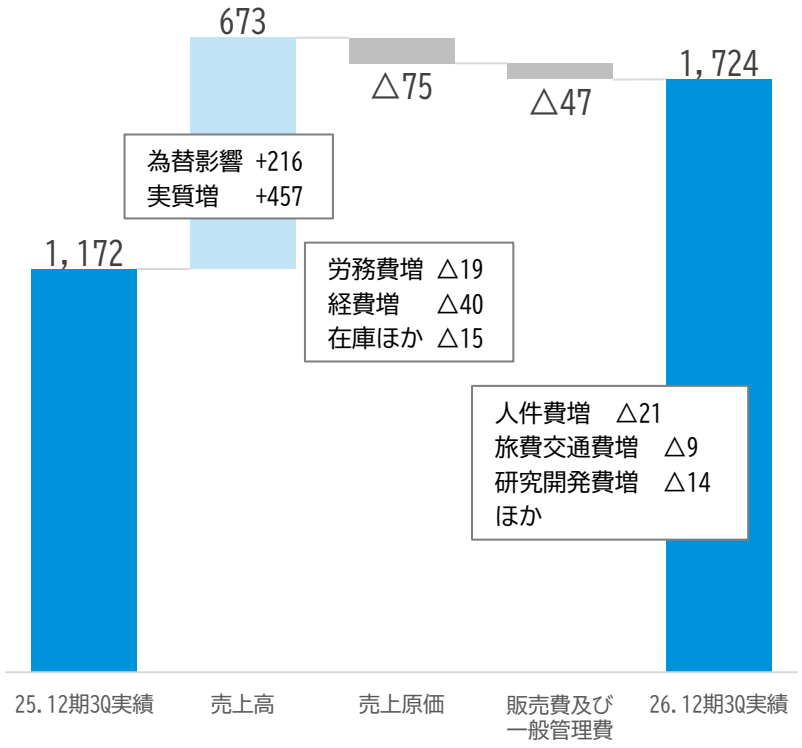
（単位：百万円）



営業利益 3Q（7－9月）の増減要因

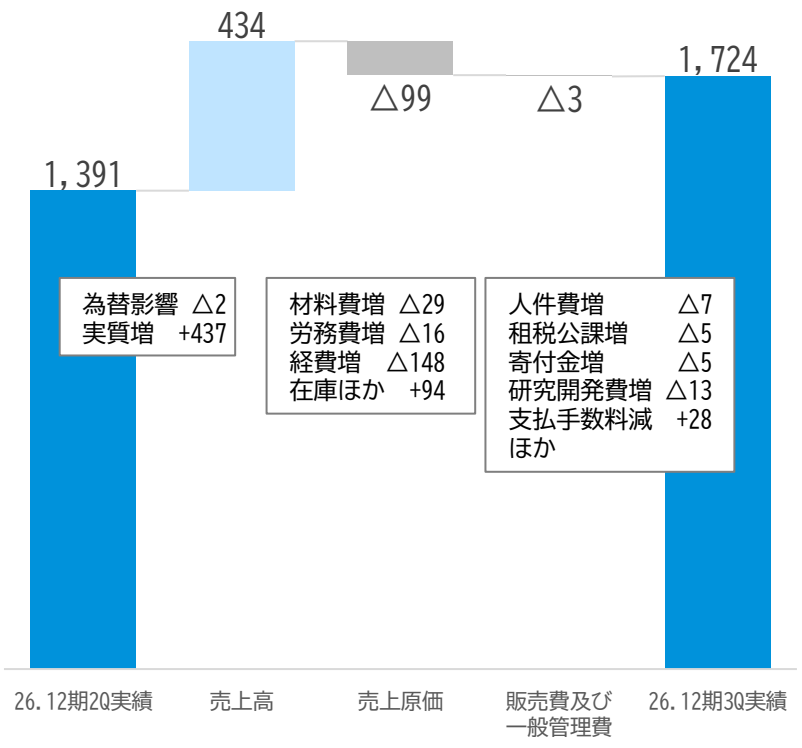
前年同期比

（単位：百万円）



前四半期比

（単位：百万円）



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な条件・要素によりこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料はその実現を確約したり、保証するものではございません。

湖北工業株式会社　広報・IR担当
E-mail　ir@kohokukogyo.co.jp
TEL 0749(85)3211　　FAX 0749(85)3217